

田平遺跡 III

宇土市埋蔵文化財調査報告書第16集

1 9 8 7

熊本県宇土市教育委員会

田平遺跡 III

宇土市埋蔵文化財調査報告書第16集

1 9 8 7

熊本県宇土市教育委員会

序 文

宇土市内の西部にあります田平遺跡は、昭和55年の発掘調査によって宇土半島で初めて旧石器が出土したことで知られるようになりました。また、この調査のきっかけとなった条里の比定地でもあります。

ところで、今回の調査も前回同様に圃場整備事業に伴うものであります。これまでには、縄文・平安時代の遺構を確認しておりますが、今年度調査地からは2基の土壌を確認することができました。詳しい内容につきましては、本文に記載しているとおりです。

最後に、この調査の作業に当たられた地元の方々をはじめとして、調査の実施に当たって指導・協力を賜りました各位に対し厚くお礼申し上げる次第です。

昭和62年3月

宇土市教育委員会

教育長 船 田 至

例 言

1. 本書は、宇土市教育委員会が昭和61年度国庫・県費補助事業として実施した^{たびら}田平遺跡の発掘調査概報である。
2. 本書中の遺構の実測・製図・写真撮影は、主に高木恭二・木下洋介・元松茂樹・田中啓三・山田英裕が行った。
3. 出土遺物・その他の資料は、宇土市教育委員会が保管している。
4. 本書の執筆・編集は木下・元松が担当した。

目 次

| | |
|-------------------|----|
| I. 序 説 | 1 |
| 1. はじめに | 1 |
| 2. 調査の組織 | 1 |
| II. 調査の概要 | 5 |
| III. 最後に | 17 |
| 付. 網田平野における発掘調査年譜 | |

挿 図 目 次

| | |
|--------------------------|----|
| 第 1 図 網田平野遺跡分布図 | 3 |
| 第 2 図 区画整理計画平面図 | 4 |
| 第 3 図 トレンチ配置図 | 5 |
| 第 4 図 T 3 トレンチ平面図 | 9 |
| 第 5 図 1号・2号土壌土層断面図 | 12 |

図 版 目 次

| | |
|-------------------------|----|
| 図版 1 網田平野空中写真 | 2 |
| 図版 2 調査区遠景 | 2 |
| 図版 3 T 1 トレンチ | 6 |
| 図版 4 T 2 トレンチ | 7 |
| 図版 5 T 3 トレンチ | 8 |
| 図版 6 1号土壌 | 10 |
| 図版 7 1号土壌土層断面 | 10 |
| 図版 8 2号土壌 | 11 |
| 図版 9 2号土壌土層断面 | 11 |
| 図版10 T 4 トレンチ | 13 |
| 図版11 T 4 トレンチ “塚” | 13 |
| 図版12 T 5 トレンチ | 14 |
| 図版13 T 6 トレンチ | 15 |

I. 序 説

1. はじめに

田平遺跡は、昭和55年に第1次の発掘調査が行われ、宇土半島から天草島嶼にかけて旧石器が初めて出土した遺跡である。またこの時、他にも縄文式土器・弥生式土器・白磁・青磁・染付等や石鏃・楔形石器・スクレーパー等の石器が出土している。

また、昭和60年の第2次の調査時には、平安時代の土壇墓が確認され部分的ながらも遺構が存在することが判明し、今後の調査の手掛かりとなった。

そこで今年度も、圃場整備事業に先立ち昭和61年6月4日から8月1日まで発掘調査を行った。

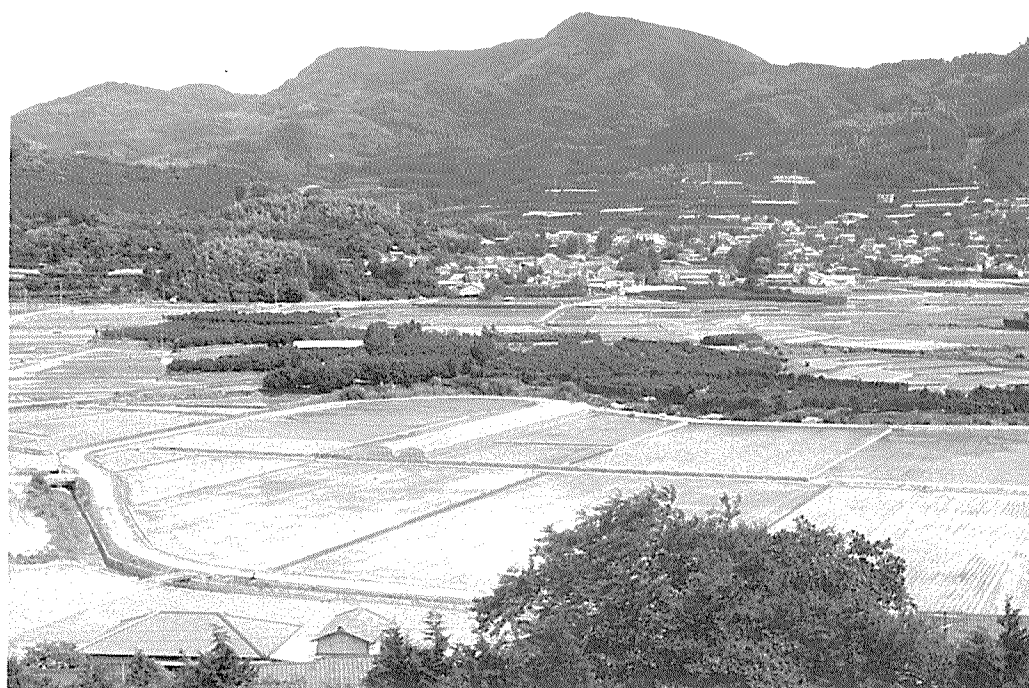
調査にあたっては、多くの人々の協力を得、無事に終了することができ、感謝の意を表します。

2. 調査の組織

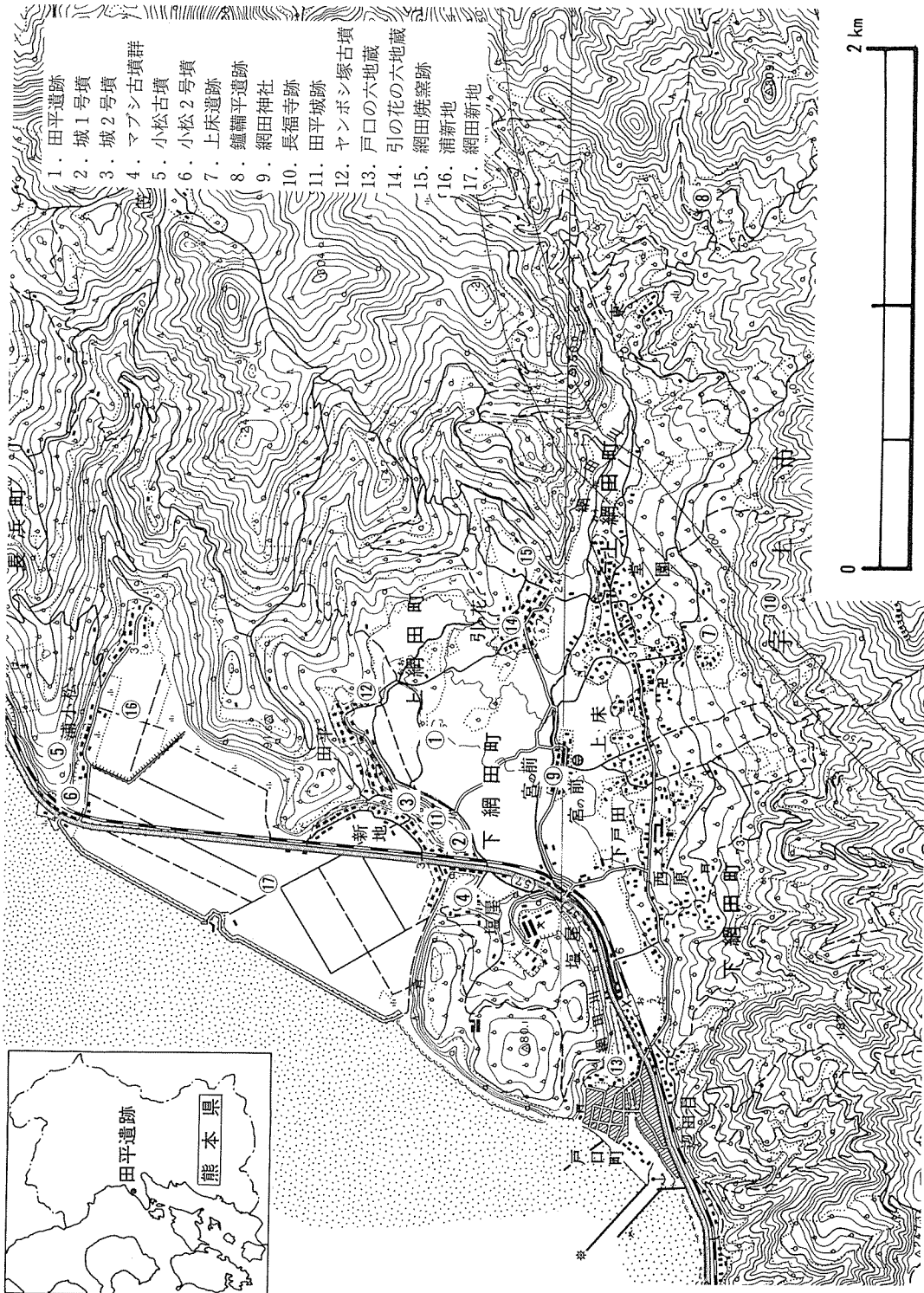
| | |
|------|--|
| 調査主体 | 宇土市教育委員会 |
| | 教育長 船田 至 |
| 調査総括 | 社会教育課長 本郷裕幸 |
| | 文化振興係長 一 宗雄 |
| 調査庶務 | 参 事 中野照子 |
| 調査担当 | 主 事 高木恭二 |
| | 主 事 木下洋介 |
| 調査補助 | 元松茂樹・田中啓三・山田英裕・松尾政義・川口ヤス子 北吉ヤス子・白石ふゆ子・渡辺チヨ子・塩田ヤエ子 |
| 調査協力 | 嶽下武義（網田団体営土地改良組合長） 村田房夫（宇土市文化財保護審議委員） 宇土市役所農政課 |



図版1 網田平野空中写真



図版2 調査区遠景

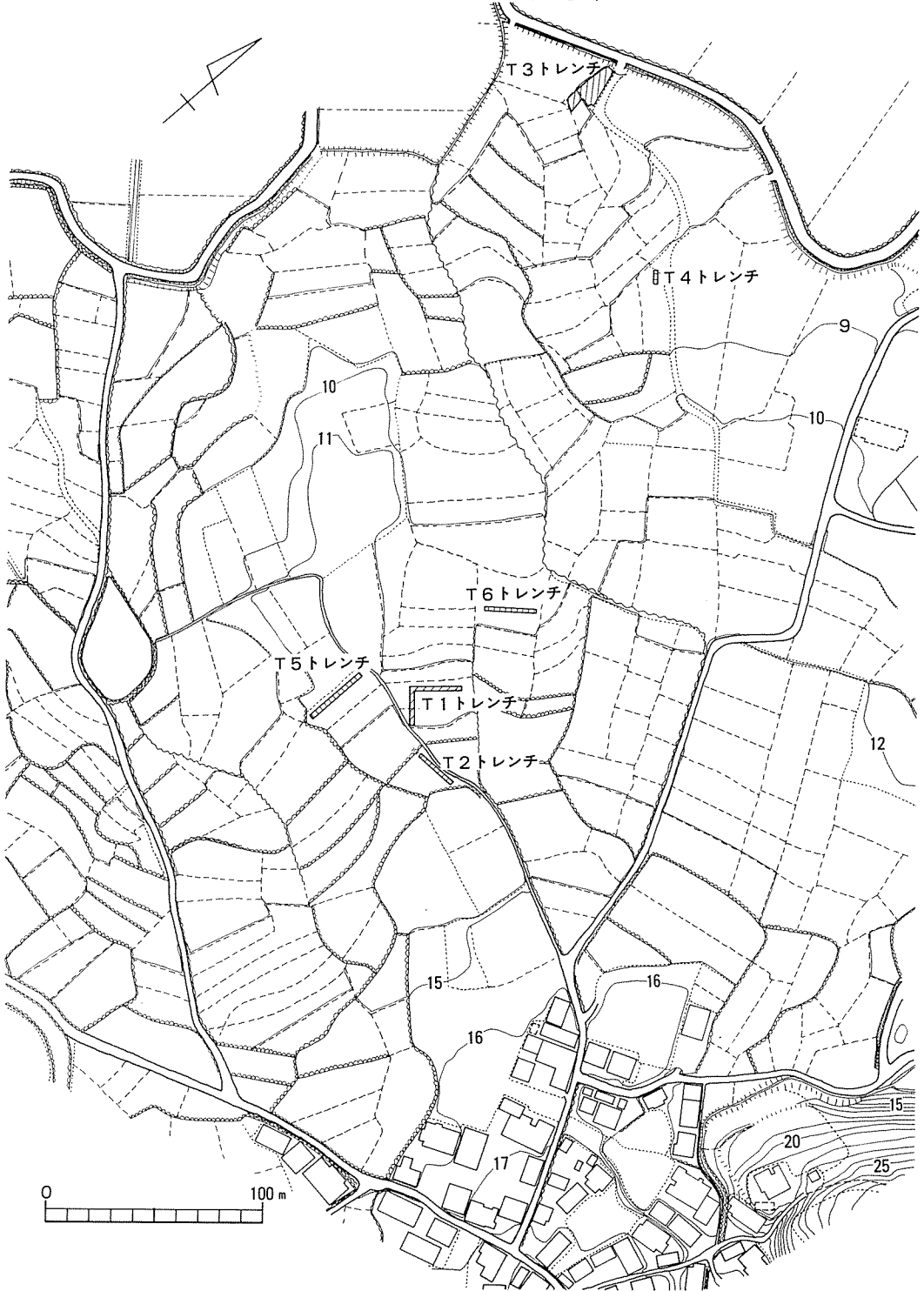


第1図 網田平野遺跡分布図



第 2 図 区画整理計画平面図

II. 調査の概要



第3図 トレンチ配置図

T 1 トレンチ

T 1 トレンチは引ノ花の集落から延びた微高地上に位置し、標高11.5mを測る。現況は水田で、2枚にまたがるように24m×2mの大きさと、直角に16m×2mのトレンチを設定した。

水田の耕作土を剥ぐと深さ20cm程で地山に達する。地山には、遺構の存在はなく、出土遺物も少ない。

出土遺物には、石鏃・黒曜石・土師器・須恵器・青磁・網田焼等があり、土師器と須恵器には高台付の碗がある。



図版3 T 1 トレンチ



図版4 T2トレンチ

石・土師器・須恵器・網田焼・瓦器質スリ鉢がある。

T2トレンチ

T2トレンチは、T1トレンチの東南に位置し、標高12.4mを測り、T1トレンチより1m程高い位置にある。

トレンチは東西に長い20m×2mの規模で設定。耕作土を10数cm剥ぐと、トレンチの東側半分には地山、西側には黒色土を検出した。その黒色土を剥ぐと、トレンチ中央の段落ち部分に石垣の裏込め約80cmの厚さと石垣前面に幅約20cmの溝を確認。石垣及び溝は、南北方向に延びており石垣の面は西を向く。

これらの遺構は、旧地形、つまり2枚の田畑を拡張し、今の広さを確保したものと思われる。

このトレンチから出土した遺物には、安山岩製の石鏃・黒曜



図版5 T3トレンチ

T3トレンチ

引ノ花の集落から延びた微高地は北と南に分岐し、北に延びた微高地には、主に柑橘類が栽培されている。

T3トレンチは、この北に延びた微高地の最先端（標高6.4m）に位置する。発掘時の状況は荒地であったが、一時水田にも利用されていたようである。

T3トレンチは南北方向に長さ18m、幅2mの大きさを調査を開始したが、トレンチの中央部に掘り込みを検出したので、その全容を把握するために一段下の水田を含め拡張した。

検出した遺構には2基の土壇がある。

1号土壇は、東辺8.6m、西辺7.8m、下場で東辺7.8m、西辺

7.3m、幅約3.4m、下場2m、深さ70cmを測り、平面図は長方形、断面は逆台形を呈する。

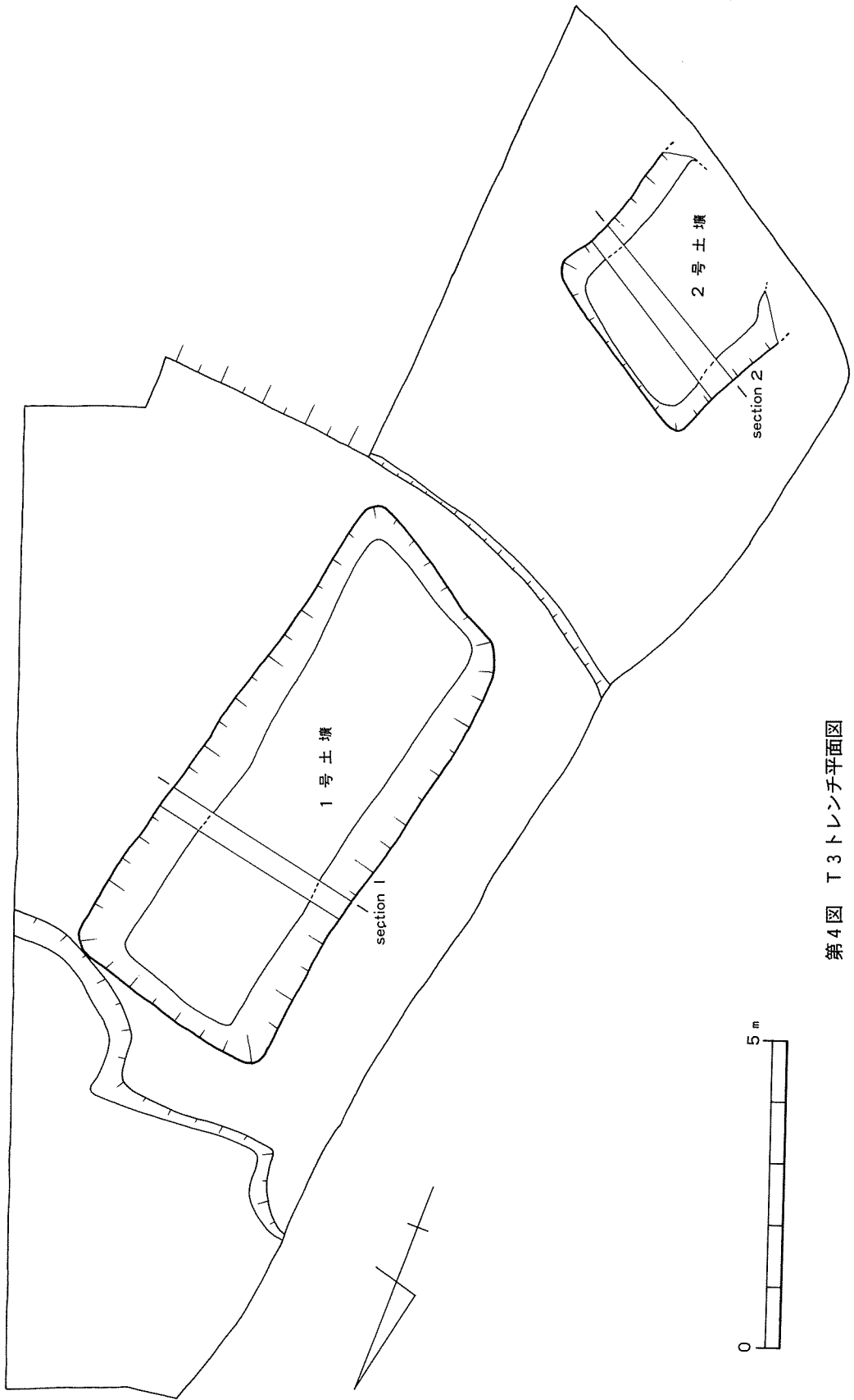
土壇内の層は、西側から埋まった様子を示していて、土質は地山のブロックを多量に含んでいる。

土壇内からの出土遺物はない。

2号土壇は、南側の約半分を欠く。横3.2m、深さ55cmを測り、長さ2.8mが遺存する。

これも1号同様に西側から埋まった様子を示している。土壇内からの出土遺物はない。

T3トレンチからは、土師器高台付碗・須恵器・青磁・網田焼・寛永通宝等が出土している。



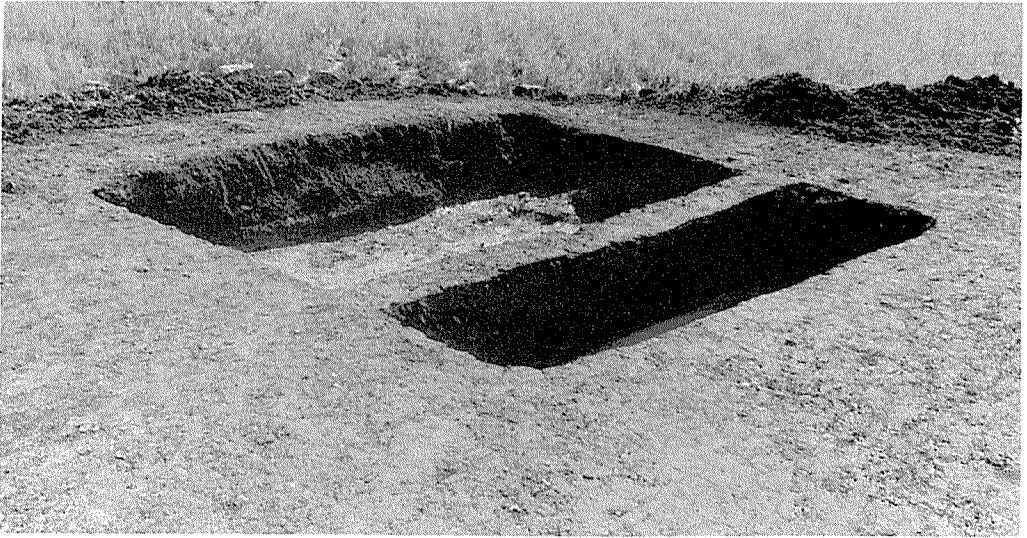
第4図 T3トレンチ平面図



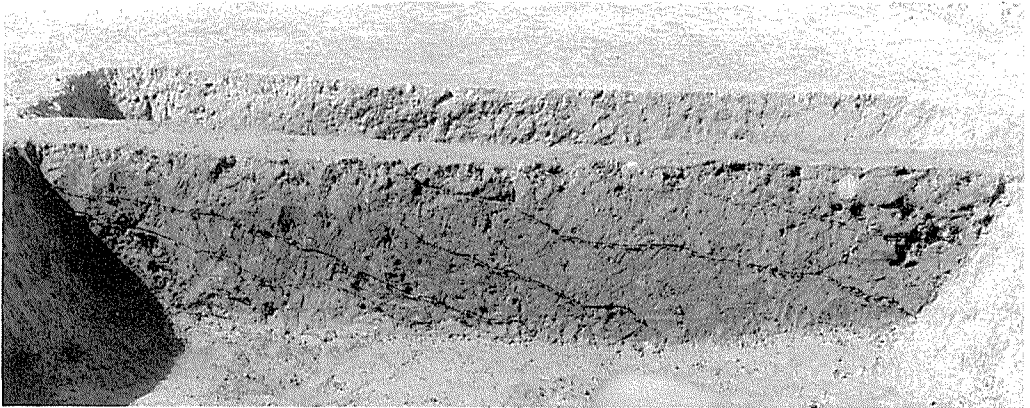
图版6 1号土壤



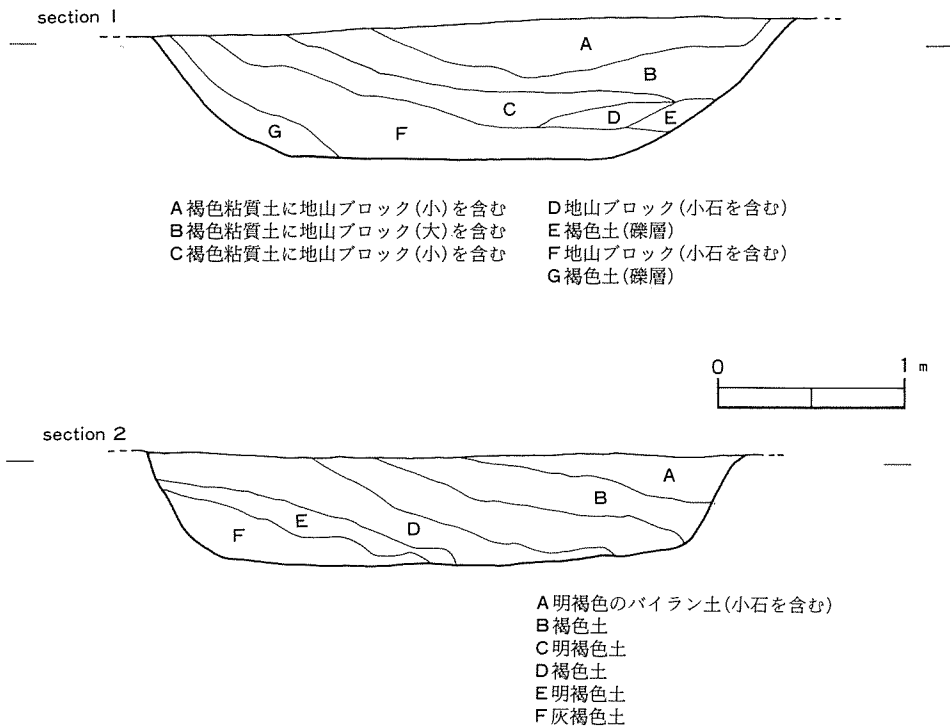
图版7 1号土壤土层断面



图版 8 2号土坑



图版 9 2号土坑土层断面



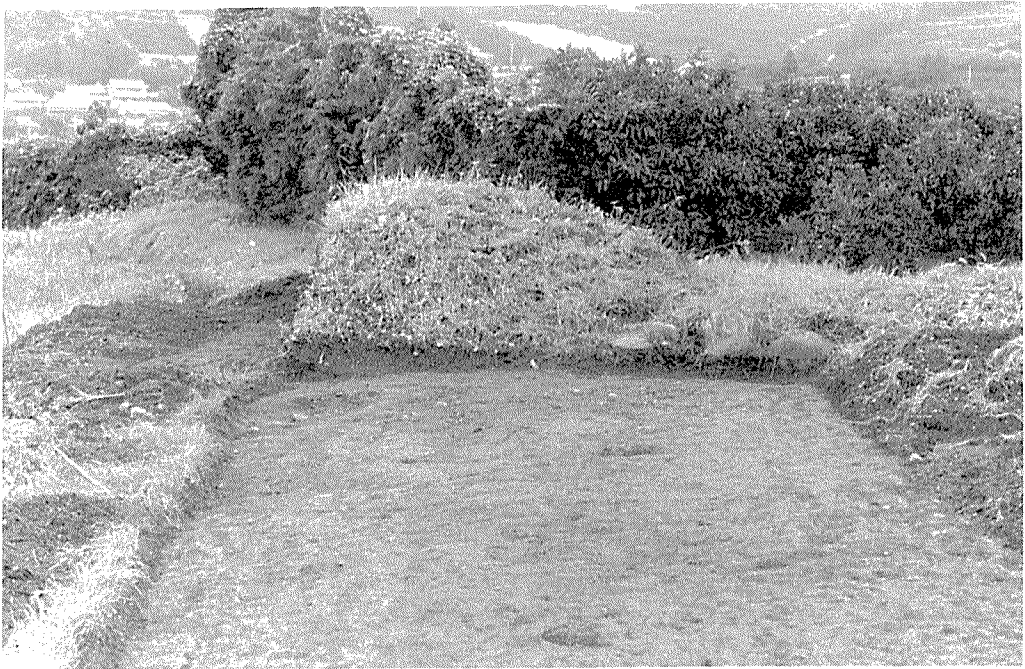
第5図 1号・2号土壌土層断面図

T 4 トレンチ

T 4 トレンチはT 3 トレンチの東側90mの地点の里道の脇に6 m×4 m高さ1.3mの“塚”状の地形がある。この塚の縦断とその南側に6 m×2 mの大きさのトレンチで調査を進めた。

塚は、拳大の礫が多量に土と混じりあって堆積している。また、トレンチにも遺構の検出もない、出土した遺物も網田焼が主である。

この塚は、田畑から出る礫の捨て場所であり、この地形を形成したものと思われ、周辺にも同様のものが数ヶ所あったという。



図版10 T4トレンチ



図版11 T4トレンチ“塚”



図版12 T5トレンチ

T5トレンチ

北側に延びた微高地の先端部にT3トレンチがあり、南に延びた微高地上（標高11.3m）にT5トレンチがある。

T5トレンチは、長さ30m、幅2mで設定した。耕作土を剥ぐとすぐ地山に達するが、トレンチの東側はなだらかな傾斜で下っていて、周辺の地形から地山面はそのまま下り、網田川に続くものと思われる。

このトレンチから出土した遺物には、黒曜石の石鏃・須恵器・土錘・網田焼がある。

T6トレンチ

T6トレンチは南北両方向に分岐した微高地の間に位置する。地形的には迫を形成しており、

網田川からの分水がトレンチの傍を流れ、微高地の先端まで至る。

T6トレンチの規模は、24m×2m、現況は水田である。

耕作土を剥ぐと褐色土になり、この層の下に厚いへどろ層が堆積している。さらにへどろ層の下は、黒色の砂層に変わる。砂層に達した状態でトレンチの両端はやや高くなり、人頭大の礫が集中している。また、トレンチの北端隅に自然の倒木と思われる木が出土した。

このトレンチからの出土遺物には土師器・須恵器・網田焼がある。



図版13 T6トレンチ

土壌について

T3トレンチで検出した土壌2基については、前述したとおりであるが、出土遺物がないため時期が不明、また使用目的も不明であるので、これらについて考えてみたい。

まず、1号土壌の大きさは前述したとおりで容積約13m³を求めることができる。また、2号土壌も半壊しているが、1号土壌と同規模程度のものであると思われる。

土壌の埋没は、土層の観察から長期にわたって行われたものではなく、短期間のうちに埋まったものと思われる。

これらの土壌には上部施設の存在を示すものはない。

地形からみた場合、微高地の先端に位置しており、網田川からの分水もこの地点まで達するにはやや困難であったようであるため、貯水のために掘られたものと推測できる。

Ⅲ. 最 後 に

今年度の調査はトレンチを6ヶ所に設定し発掘を行った。その結果、T3において確認した2基の土壇は、貯水の為のものと思われるが、時期は不明である。また、T3を除くトレンチにおいては、少量の遺物を出土するだけで遺構の検出はなかった。

しかし、出土した遺物には、これまでの不明であった歴史の隙間を多少なりとも埋めることが出来たように思われる。

田平遺跡の調査のきっかけとなった条里の比定地を発掘によって実証することは出来ていないが、昭和55年から3次にわたり行った発掘調査で網田平野の中央部において遺構の存在を示したことは、わずかではあるがその目的に近づいているものと思われる。

田平遺跡は、地理的な特徴から、網田平野の中央部の微高地をその範囲と推測できる。調査による遺構の確認は少ないが、各トレンチからは多少なりとも遺物が出土しており、微高地全体に広がる時期もあったと思われるが、網田川の氾濫や水田の開墾等により遺構が破壊され、現在の調査ではそれらの確認を難しくしているものであろう。

付・網田平野における発掘調査年譜

| 遺跡名 | 調査年月 | 調査者 | 文献 |
|--------------------|-----------------------|--------------------|--|
| 塩屋古墳 (城1号墳) | 1960. 3 | 富 樫 卯三郎 | 「城1号墳の発掘概要 — 旧塩屋古墳第2号の調査」『城二号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第3集 1981 |
| 小松古墳 (小松1号墳) | 1962. 1 | 松 本 雅 明 富 樫 卯三郎 | 「考古ノート — 宇土市長浜町井崎～同町小松 —」 『宇土市史研究』第5集 1984 |
| 網田中学校実習 地内古墳 | 1964 | 富 樫 卯三郎 | |
| マブシ古墳群 (2号・3号墳) | 1972. 1 | 富 樫 卯三郎 卯野木 盈 二 | 「宇土市下網田町マブシ出土の石棺」 『宇土半島自然と文化』1975 |
| 長浜箱式石棺群 | 1975. 8 | 富 樫 卯三郎 | 「考古ノート」『宇土市史研究』第5集 1984 |
| 城 2 号 墳 | 1978. 12 ～1979. 12 | 三 島 格 | 『城二号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告 書 第3集 1981 |
| 田 平 遺 跡 (第1次) | 1980. 2～6 | 平 山 修 一 | 『田平遺跡』宇土市埋蔵文化財調査報告 書 第5集 1981 |
| 小松2号墳 | 1981. 4 | 富 樫 卯三郎 | 「考古ノート — 宇土市長浜町井崎～同 町小松 —」 『宇土市史研究』 第5集 1984 |
| 田 平 城 跡 | 1982. 7～9 | 平 山 修 一 木 下 洋 介 | 『田平城跡』宇土市埋蔵文化財調査報告 書 第8集 1983 |
| ヤンボシ塚古墳 | 1985. 2～3 | 高 木 恭 二 木 下 洋 介 | 『ヤンボシ塚古墳・檜崎古墳』宇土市埋 蔵文化財調査報告書 第13集 1986 |
| 田 平 遺 跡 (第2次) | 1985. 6～8 | 高 木 恭 二 木 下 洋 介 | 『田平遺跡II』宇土市埋蔵文化財調査報 告書 第14集 1986 |
| 田 平 遺 跡 (第3次) | 1986. 6～7 | 高 木 恭 二 木 下 洋 介 | 本 書 |

※ この年譜は、高木恭二が作成し宇城地方の文化財第三集(1984)に掲載されている「宇城地方発掘調査年譜一覧表」から網田平野関係分を抜粋し、1984年以降の調査を追加したものである。

田平遺跡Ⅲ

宇土市埋蔵文化財調査報告書 第16集

昭和62年3月31日

編集・発行 宇土市教育委員会
熊本県宇土市浦田町51番地

印刷 (資) 下 田 印刷

